



井添將仁 《流離い人の丘》 麻紙、岩絵具 2273 × 1818 mm

《流離い人の丘》
日常の普遍性からの抽出と非日常性の逆行からなる虚構の表出について
～実態と実在～
《Vagabond living in the Hills》
A Study on the False Expression which Consists of Daily Universalism and Non-Daily Life
～ Reality and Actuality ～

井添 将仁
Masahito IZOE

崇城大学大学院芸術研究科美術専攻
Division of Fine Art, Graduate School of Art, Sojo University



《流離い人の丘》
麻紙、岩絵具 2273 × 1818 mm

本稿は日常における普遍性と非日常性の関係について考察し、そこから見える実態について本修了制作《流離い人の丘》のために行った現地取材および制作過程の観点から述べている。日常の普遍性と非日常性という性質は、自然界、あるいは人間界で起きている実体のない現象や動きであるため、視覚的に捉えることは困難である。また、この二つの性質を探る主題はすでに芸術全般で取り扱われている主題であり、本修了制作に限らず多くの作品に共通するものである。そこで本稿では、さらに二つの性質の実態とその実態に形ないし色を与えることによって表出されるモノとは何かを明らかにしていく。

本稿は三章構成になっており、各章の内容は以下の通りである。

第一章では、本修了制作に至った経緯について、大学院で行ってきた制作を振り返りながら述べている。大学院では日常における私生活に焦点を当てて制作を行い、それに起因して旅に出たことが本修了制作の動機に繋がったことも併せて述べている。

次に、第二章では自身の制作姿勢を述べ、本修了制作における着想源を現地取材の結果と自身の幼少期の記憶を基に解説している。また、ここでは画面の中に登場する「実在する人物」と「実在しない人物」に焦点をあてて日常の普遍性と非日常性について考察し、その実態を明らかにした。加えて、画面を構成するモチーフの解説もしている。

第三章では日常と非日常の境界に存在するモノを明らかにするため、非日常性の点から逆行して考察し直した。その経緯として「実在する人物」と「実在しない人物」に構想当初にはなかったものを無意識の内に共有させていることに気づいたからである。非日常の点から辿った結果、逆行する中で見える実態と日常を辿る中で見える実態とがあり、そして、その実態に実在の形ないし色を与えることによって「虚構」の表出に至ったとして本稿を終えている。

本修了制作において、普遍性と非日常性の実態からなる「虚構」の表出を研究テーマとしているが、「虚構」の表出は意識して行ったわけではない。ここでの「虚構」は現地取材から得たイメージ、またはその場所で自身が望んだ光景を無意識に具現化したものとする。本修了制作に着手するにあたり、その無意識下で捉えたモノに向き合うことが自身の表現あるいは自分自身と向き合うことへと繋がると実感した。